

北 どころ

第84号 2023年3月1日（毎月1日発行）



疫清神社には牛頭天王が祀られている。

芸備線ストロール⑮ 坂根駅 さかね

「福を呼ぶ大黒様と疫病除けの牛頭天王」

2月号では休載したので、2カ月ぶりの芸備線だ。2月18日の金曜日、午前7時半前に、車で庄原市街の自宅を出発。店内整理で2月は休業しているので、取材日の制約がないのはありがたい。

沿道の積雪はほとんど消えているが、寒い朝で、いつの間にか粉雪が舞っている。芸備線沿いの道々を走るのが、比婆山駅を過ぎて

備後落合駅に向かう国道脇には雪がまだたくさん残っている。

小鳥原（ひととばら）川沿いの国道183号線と314号線が重複している区間は、深山の渓谷の中を走っているようなダイナミズムがある。山が紅葉する秋もいいが、こうした雪景色も素晴らしい。

葉を落とした森の遠景は、まるで小動物の灰色の冬毛のよう、ふんわりと柔らかい。

道後山駅への峠の坂道を登る時に吹雪いたが、次第に天気は回復して、東城町から岡山の哲西町に入る頃には晴間が覗いている。備後の国から備中の国へ。かつての大国、吉備国が備前、備中、備後に三分割された。

芸備線は大正4年に私鉄の「芸備鉄道」が東広島駅―志和地駅（三次市）間で開業したのが始まり。安芸国の「芸」と備後国の「備」。今は備中国

の「備」でもある。

家を出て1時間半ほどで市岡駅に到着。駅前に車を停めてホームに立つと、木次線の出雲横田―備後落合間が大雪のため運行を終日休止しているというアナウンスが聞こえてきた。芸備線よりも雪の影響は大きいようだ。

9時9分発の新見行き（土日運休）に乗車。乗客はわたしを含めて4人、そのうち新見高校の生徒が2人。列車はしばらく田園地帯を走っていたが、トンネルの中に入った。けっこう長い。トンネルを抜けた先が坂根駅だった。運賃は150円と他区間よりも安い。市岡駅が後設された駅なので、鉄道距離が短いのだ。

駅舎はなく、透明なパネルで囲われた簡易な待合室があるだけだ。開業は昭和5年（当時は三神線）で、古い駅なのだが、当時の駅舎は平成16年に撤去された。ネットで以前の駅舎の写真をみることでできたが、野馳駅に似た味わいのある建物だった。これも時代の流れだろうか。

駅の西側に、「坂根分館」という看板を掲げた建物がある。地域の公民館で、社会福祉協議会の軽自動車が一台中、停まっていた。庭には立派なしだれ



桜の木が植えてある。枝がドームのように地面まで「しだれ」ていて、花見の光景を思い描いた。春爛漫の時期に再訪したい場所の一つである。駅のすぐ前に、中国縦貫自動車道の高速道路が走っている。その側壁の四角いコンクリートのトンネルを通り抜けて、神代（こうじろ）川の坂根橋を渡って直進すると、国道182号線に出る。駅前の商店街、あるいはその痕跡は見当たらない。

家々の軒先の瓦を見て驚いた。先端のいわゆる鬼瓦の部分に、鬼の顔ではなく大黒様の顔が嵌め込まれている（左上写真）。顔の部分だけ肌色なのかと迷ったが、顔の替わりに打ち出の小槌の鬼瓦があったので、大黒様なのだと推測。打ち出の小槌は新しい瓦に多いようだ。地元の人に確認したが、特に注文したものではないという。後で調べると、島根県の石州瓦に多いデザインのようなのだ。出雲大社で祀られている大黒天と大黒天は元々は別の神様だが、同じダイコク様と呼ばれることから習合（折衷、同一視、融合）されるようになった。石州瓦に大黒天が使われるようになったのもその影響か。岡山の間地、島根の文化の影響が残るのは興味深い。魔除けの鬼ではなく、福を招く大黒様を掲げるセンスは共感できる。近くにある疫清神社（一頁写真下）

を訪ねた。牛頭天王を祀っているの
で、「てんのうさん」とか「えきせい
さん」と呼ばれている。牛頭天王は
日本における神仏習合の神で、平安
京の祇園社の祭神であるところから
祇園天神とも称され、平安時代から
行疫神として崇め信じられてきた。
疫清神社の氏子総代の一人であり、
神社のそばに住んで世話役をしてい
る三輪釜（たかし）さんに話を訊いた。
起源を記した文献等は存在しないが、
口承では遠い昔に疫病がはやったと
きに地域住民の力で創建された神社
だという。

毎年6月に神主を招いて祭礼を開
催、牛頭天王のご神体を御開帳して
いたそうなのだが、皮肉なことにコ
ロナ禍で、ここ数年は神社の
狭い空間に人を集めることが
できずに、駅前の公民館で代
替開催したりしているとい
う。それでも疫清神社のご利
益か、この地域ではクラス
ター等の災厄は起きていな
い。今度こそその願いを込めて、
疫病退散を懇（ねんご）ろに
祈願した。

三輪さんの家は「古民家民
宿・道前三輪（どうぜんみわ）」
を営んでいる。石垣の上に建
つ古民家で、端正な日本庭園
（写真下）が魅力。フェイス
ブックの紹介記事を読んで、
外国からの旅行者が宿泊する
こともあるという。

「坂根駅が近くにあるのはありがたい
です。芸備線がなくなれば、遠方の
お客さんは厳しいでしょうね」
三輪さんがつぶやいた。
182号線を新見方面に進み、中
国縦貫道の高架をくぐると、「神郷工
業団地」の標識。表示通りに右折し
て橋を渡った先に「新見バイオマス
発電所」の施設がある。利用しにく
い間伐材などを燃料とした発電施設
で、令和2年操業のまだ新しいプラ
ントだ。芸備線の沿線を散策してい
て、木材を満載したトラックをよく
見かけるようになったが、ここが目
的地なのだとなつたが、ここが目
的の地なのだとなつた。

「中村慎吾先生の死を悼む」(前編)

黒長 澳^{ふかし}

正月早々、中村慎吾先生の急逝にはショックを受けました。一月三日の夜、退職校長会から先生の訃報が入ったときは信じられませんでした。昨年末に先生から曾孫さんの誕生を喜び、博物館での標本整理、道後山植物誌のまとめなど元気に取り組んでいるとお便りをいただいたばかりだったからです。あまりにも突然でした。本当に残念です。

出会いと博物館

先生に初めてお会いしたのは昭和三十一年です。新卒で呉から比和小学校に赴任したとき、先生は比和中



学校に勤務しておられました。当時は、ときどき小中学校教職員の懇親会があり、談論風発中村慎吾先生からは、昆虫採集や理科教育のことなどをお聴きしました。

当時の小学校の校長は郷土史に詳しい白根英之先生、理科準備室は博物館を兼ねていて、そこには藤原(のちに湯川と改姓)さんが勤務しておられました。藤原さんは白根校長や中村慎吾先生の支援を受けてモグラの標本づくりに熱中し、世界中の国々のモグラを交換して集めておられました。私はいろいろなモグラの標本を見せていただいたものです。博物館は、やがて庄原実業高校比和分校に移転しますが、中村先生が今日の比和自然科学博物館に発展する基礎を築かれられました。

帝釈理科講習会

私が帝釈理科講習会に参加したのは赴任した年

の夏です。このときのことを「第三十回理科講習会記念誌」に「堀川先生のことなど」と題して思い出を書いています。広大の堀川教授の講義のあと現地指導があり、私は堀川先生や中村先生のすぐそばについて歩きました。堀川先生には樹木の名前や特徴、中村先生には草花や蝶の名前を教えていただきました。

この記念誌に、私は「帝釈理科講習会に参加して多くの知識を与えられ、実習で技術を学んだが、それらのなによりも学んだのは、自然を愛し、自然を守る人びとの心である」と書いています。自然保護の大切さを知らせ、学術的価値を世に問われてきた帝釈理科講習会の企画運営、講師の選定、依頼などに、中心的な

役割を果たされてきたのが中村先生でした。

本小学校で

昭和五十九年四月、私は中村先生が校長の本小学校の教頭として赴任しました。中村先生は車の運転をされないもので、私の車に同乗されることしたがたびたびありました。その車の中や、車から降りて校舎までの道すがら、いろいろ教わりました。今、振り返ると本当にありがたい時間でした。

草花の名前に疎い私が草花の名前を質問すると、こんなことも知らないのかという顔をされたことがあります。いつもていねいに説明してくださいました。

小学校の校長で農学博士は多くないと思いますが、中村先生はあくまでも謙虚で、博識をひけらかすようなことは全くなかったです。私はそのような姿勢に尊敬の念を禁じ得ませんでした。

職員室では休憩時間になると子どもたちが校長先生の机の周りを囲みます。昆虫や草花を持ってきてさまざまな質問をします。それに対していつも分かりやすく話されます。そばにいる私も勉強になりました。



比和自然科学博物館

寄稿エッセイ 「クロメンガタスズメ」

高柴順紀 (菊栽培農家)

菊畑のそばへ誘蛾灯を設置して八年間、毎日蛾を集めました。庄原の中村慎吾先生宅へ届ける為に始めたのでした。沢山の蛾の中に一頭だけ写真のような異様な蛾が飛び込んできたのです。

ズメ。時折、野菜畑の周りで大きな芋虫が這っています。成虫になるとスズメガになります。これはその仲間でした。

名前はクロメンガタ(黒面形)ス

から、ヨーロッパの人たちは背中の模様を髑髏スズメ(Death's-head Hawkmoth)と称し暗いイメージを抱いてきたようです。

は三種類いますが、学名はとていと冥土を意味するアケロンテアを属名に、ギリシャ神話に出て来る女神の名前を

種名にしてあるのです。

クロメンガタスズメ *Acherontia lachesis* (冥土のラシケス)

ヨーロッパメンガタスズメ *Acherontia atropos* (冥土のアトロポス)

メンガタスズメ *Acherontia styx medusa* (冥土の川のメドゥーサ)

ラケシスは運命の三姉妹の一人。人の運命の糸を測り、アトロポスは糸を断ち切る女神です。メドゥーサは運命の三姉妹ではなく、髪の毛が蛇で見るものはみな石にしてしまうという女神メドゥーサです。英和辞典に出ているほどの最悪の女神のようです。

確かになんとも言えない模様ですが決して蛾には責任はありません。しかし西洋人はこんな背景から『羊たちの沈黙』という映画を作りました。



「誘蛾灯を調べる中村慎吾先生」(2017.6.28 東城町森)



「クロメンガタスズメ」

た。高い評価を受けましたが、メンガタスズメの蛹が女性の口の中から出て来るという不愉快極まる物語です。でもネットから探し出したポスターは美しいです。

一方、「幸いにして」同じ模様を見ても日本

ではドクロの発想はなく面形と呼んでいます。お能でも神楽でも面には暗いイメージを抱くことはなく、生への希求が込められていると信じるので、思わず「幸いにして」と言ってしまったようです。

岡本綺堂の『修善寺物語』でも死相が現れる面が主題であったように、私達の文化は死が予感される面を否定してきたのかもしれない。物語の中で主人公の夜叉王に「：幾たび打ち直しても生きたる色なく、たましいも亡き死人の相、それは世にある人の面ではござりませぬ。：」と言わせております。

この映画は観ましたがポスターは月並みです。

追記

中村慎吾先生が正月に急逝されました。東城町森の蛾を八年間調べられ、千百四十六種同定されました。まだまだ続けられる意向でしたから悔しくてたまりません。それは自然誌の中の今という一瞬を記録することの大切さを何時も熱っぽく話されていていましたから。また一地点で年間通じて毎日の蛾データは国内はもとより海外でも例を知らないと言われていたので。先生の調査研究に協力

できたことを将来誇りに思える日が来るかも知れません。でも今はそんな気にはなれないのです。

『比婆科学』においても些細な出来事も丹念に記録されてこられたのも先生の信念だったと感じます。また先生が関心を持たれてきた『セルボーン』の自然誌』ですが、ご子息の案内でセルボーンの村を訪問された時、記述どうりの風景が見られたと感激されていました。比和の自然誌に深く関わられてきたことと通底するものが在ります。まさに自然誌に溶け込んだ人と言えようか。

蛾は勿論昆虫などには興味があった私でしたが、先生の案内で楽しい世界が身近にあることを教えて頂いたことに感謝しています。稚拙な蛾についての一文ですがこれが追悼の文になれば嬉しいです。

心からご冥福をお祈りいたします。

寄稿エッセイ2

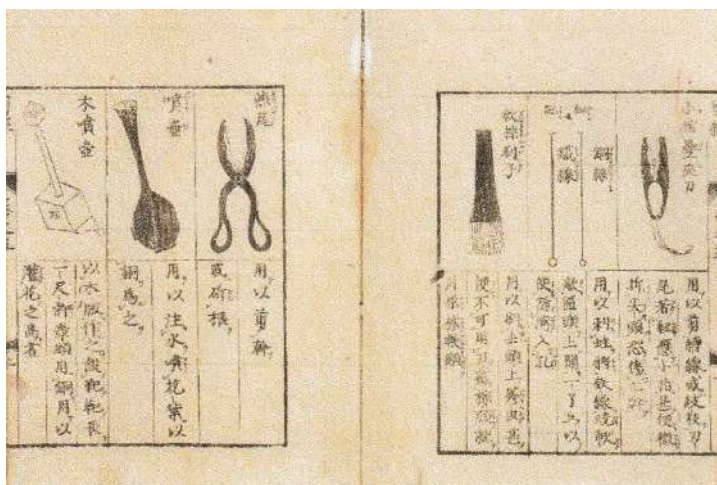
「菊と殿様」

高柴順紀

殿様と言えば志村けんさんの「ばか殿様」を連想される人は多いと思います。平和な時代の殿様を演じて

皆を楽しませてくれましたが、二百年以上も続いた江戸時代の殿様も血生臭い戦禍を心配することなく平和を満喫できたようです。またこの時代の平穏な日々は様々な文化芸術が大きく発展しましたが、菊も園芸文化の華として人々に愛されました。種をまけば幾らでも変わった品種が出てくるといふ性質は花競べが流行ったり、時には高価な値段で取引されたりもしました。

このような菊の流れを苦々しく思った殿様が居ました。守山藩主の



松平頼寛（よりひろ）です。現在の福島県郡山市に当たりますが祖父が黄門さんの弟という御三家水戸藩の血筋を引く他藩からも一目を置かれた藩主でした。学問にも秀でた頼寛

は黄龍の名で『菊経』（1755年）という栽培書を漢文で著し、人々に菊の意味するところを教えようとしたのです。最初に「古ノ菊ヲ好ム者ハヨク志ヲ養テタノシム今ノ菊ヲ好ム者ハ人ニホコリ我身モ一生苦シム」と説いています。他の栽培書、例えば『菊花壇養種』（1715年）などと違って全く菊の花の図はありません。図と言えは栽培道具（花器）と害虫だけで自分の信念を貫いている内容で読者に媚びた所は皆無です。当時としては珍しく引用文献を九十四も記しており凄く勉強ぶりです。一番最後に上げている文献の『徳善齋菊譜』（1458年）は中国最古の菊栽培書と言われていますが、その中の花器の図をそのまま利用している所もあるのでこの書を参考にしたのかもしれませんが。

参勤交代も免じられていた藩でしたから常に江戸詰めの中で自分の世界に没頭できたのかもしれませんが。藩邸の中で栽培した百種の菊を漢文で著した『酈園百菊譜』や『養菊論』

『中菊作養』なども残しました。晩年には徳川家康の一代記『大三河志』を纏めるほどの学者でした。

ところで頼寛の弟、松平頼恭（よりたか）も学者でした。讃岐高松藩の養子として迎えられ藩主になると藩の財政を立て直しかつ博物学に深く興味を持った殿様で植物やけもの、海産動物などの図譜を作成しました。平賀源内を家臣にして重用していたことは良く知られています。この二人だけではなく全国各地には博物学などに興味を示した殿様たちがいて学者殿様と言われています。殿様のキーワードは「平和」かな。

話は変わりますが江戸時代の菊の著作の中に伝武林唯七『菊の画譜』（1690年）があります。この武林唯七は殿様ではなくあの赤穂浪士の一人とか。忠臣蔵のドラマなどで菊を愛した浪人など見たことも無いのですが、当人だとしたら血気にまかせず静かにしていればもつと菊が愛せたらうに・・・菊屋はそう思うのですが。

〈参考文献〉

『科学朝日編』殿様生物学の系譜（朝日選書4211）

『江戸の花競べ』小笠原左衛門享軒（青幻社）

9. 五百城文哉（いおぎぶんさい）の植物図

五百城文哉は幼名を熊吉といい、1863(文久3)年に水戸市金町で生まれた。1884(明治17)年頃上京し、農商務省に勤務した。五百城文哉は高橋由一が主宰する画塾「天絵社」に入門し、洋画を学んだ。同時に高橋源吉、浅井忠、小山正太郎の指導を受けている。正確な素描、調和のとれた彩色に秀でた五百城文哉は肖像画、風景画を得意としていたという。1893(明治26)年、シカゴで開かれた万国博覧会に出品を依頼された「日光東照宮陽明門」製作のため、日光を訪れ、そのまま、1906(明治39)年6月6日、43歳で逝去するまで、13年間、日光で過ごしている。

五百城文哉が植物に興味を持ったのは日光へ移ってからと考えられる。日本山岳会の発起人のひとりで、熱心な高山植物愛好家でもあった城(じょう)数馬と五百城文哉はもっとも深く係りがあったことから、植物に興味を持つようになったと考えられる。

それを裏づけるものに1903(明治36)年8月19日から26日まで、城数馬と共に白馬岳に登り、白馬岳の印象を「日本園芸会雑誌」に「予等牽牛星ならねども此銀河を遡りて山姫が秘めおく奇花異草を探る何の快樂か之に及ぶことなからん」と書いていることから推察される。五百城文哉が白馬岳の高山植物を描いた画幅がロンドンのアルパイン・クラブへ寄贈されたという。

五百城文哉が描いた「高山植物写生図」は2部現存し、それは松平家と東京大学大学院理学研究科植物園で所蔵されている。松平家所蔵の「高山植物写生図」は、水戸市立博物館学芸員の寺門寿明によると、「高山植物写生図」はタテヤマリンドウとミヤマリンドウを除き1種を1図に描き、94回から構成されている。それらはイギリス WHATMAN 製水彩画紙へ鉛筆で下書した上へ透明水彩絵具で着彩されているという。高山植物のみ描いたものではなく、サワギキョウやショウジョウバカマ、カタクリなど低山地の草木もふくまれている。これらの図は生育している環境の景色に添えられており、この点が五百城文哉の植物図の最大の特徴といえる(図1)。これは伝統的な風景画を植物図へ拡張した例で、日本の植物図で全く例のないものである。



東京大学植物園蔵の「高山植物写生図」は、1図版にミヤカタバミとウメバチソウ2種を描いたものの、エイザンスミレ、コスミレ、ニオイタチツボスミレのように3種を描いているものが3例、ヒメミヤマウズラなど6種を描いたもの1例、他はすべて1図版に1種を描き図版となっている。大きな違いは例えばサワギキョウの場合、花をつけたサワギキョウを正確に描いているだけで風景は描かれていない。このような例はイワタバコなど数種がある。そして、東京大学植物園蔵のものが、描写の精度が高いことから、それを原図として松平蔵が作成されたと考えられている。五百

虫と草木と人びとと ⑦2 中村慎吾

「植物画とは何か
—日本の植物図譜を中心に— (15)

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。



図1 サワギキョウ
 (「晃嶺の百花譜—五百城文哉の植物画」による)

城文哉の「高山植物写生図」は、日本の高山植物を本格的に、しかも生き生きと西洋画の画材・技法・描法を用いて描かれた最初の「植物圖譜」として高く評価されている。

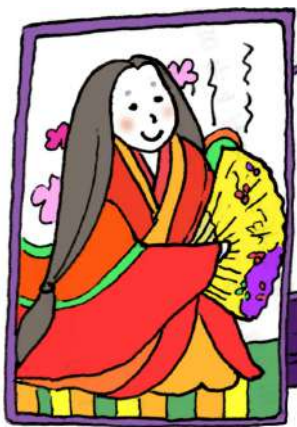
大場秀章(1982)は『文哉は飯沼慾齋の「草木図説」を手本に植物の分類を勉強した』と記している。草木図説で植物分類を独習していた文哉は1901(明治34)年8月から9月、牧野富太郎が日光へ植物採集に訪れた際、牧野富太郎と植物学者武田久吉らと共に植物採集を行い、また牧野は文哉宅へ滞在している。そして、牧野は日光へ行く前年、つまり、1900(明治33)年に城数馬と五百城文哉が日光女峰山で発見したニョウホウランの種名にふたりの名前を献名して *Orchis joo-iokiana* Makino と命名し、記載している。このことから五百城文哉は牧野富太郎との交流が深かったといえるし、影響も多大であったといえる。なお、現在、ニョウホウランの和名はニョウホウチドリ、学名は *Proerchis joo-iokiana* (Makino)F.Maekawa となっている。

「つれづれ歌談」³³

松岡初枝

春風が心地よく髪を揺らす頃になると、女はどんな髪形にしようかなと思ひ、彼女が髪を切ったけど、何かあったのかと男は思う。男女共に髪が気になる、髪は女の命とか。万葉びとは髪形やその状態を歌に詠みました。

・振分けの髪を短み青草を髪にたくらむ妹をしそ思ふ 作者不詳
 振分け髪が短くて、青草を混ぜて束ねているのだから可愛い君を思うよ……。まだ若く髪が短い、それでも大人びた束ね髪にするために草を足して背伸びしているあの娘。若い男女の青春の歌です。
 ・朝寝髪われは梳(けづ)らじ愛(うつく)しき君が手枕触れてしものを 作者不詳



朝の寝乱れ髪を櫛でとかさないワ。あの人の手枕で寝た、その手が触れた髪だもの。ああ大人の恋。当時の女は後朝(きぬぎぬ)の乱れ髪は彼の霊が移っているのだから、とかさないでいると又彼に逢える。だから櫛を入れずにいたのです。

・人は皆今は長しと束(た)けと言へど君が見し髪乱れたりとも 三形沙弥(さみ)の妻

沙弥が病気で妻に逢えない。もう髪を整えたのかい? という歌を送り、その返歌として詠まれた歌です。多くの人が早く束ねなさいと言うけれど、あなたと逢うまでそのままにしておくワ。髪は貞節を守る意味でも重要なアイテムなのです。

・福(さきはひ)のいかなる人が黒髪の白くなるまで妹の声を聞く 作者不詳

当時は年を重ねても妻と共にいられることは本当に稀で、白髪は神聖なもの、二人で長生きすることは幸福者でした。

老いも若きもその時々で髪が気になり、自分をアピールする大切な存在なのです。

姿見に自分の姿を映して確認した。父親が大切にしていたテーラーのショートコート。こげ茶色の千鳥格子の柄がしゃれている。

子供の頃は、母親似だと言われていた。大人になってからは父親にそっくりだと言われるようになったが、それが嫌だった。今は自分でも渋々認めている。洋服ダンスから出して三日間陰干ししたのだが、ナフタリンの臭いが染み込んでしまっている。

タータンチェック柄のベレー帽、これはネットオークションで手に入れた。「ダンディな古書店主」がいつも身に着けている必須アイテムなのだ。

柱時計を見ると、あと五分で十一時になる。そろそろかなと思っっているうちに、店の前で車が停まる音がした。鮮やかな花柄の小振袖に、藤色の袴姿の女性が入って来た。胸の下で結ばれた袴の紐のリボンが、凛々しくもかわいらしい。友里久美子さんだ。

「あれあれ、素敵な着物ですね」
声をかけると、久美子さんがにっこり笑った。

「大学の卒業式だったんですよ」
「きれいな花ですね。八重桜かな？」

久美子さんがはにかんだような笑みを浮かべた。

「みんなからもそう言われました。でも、本当は桃の花なんですの」

そう言って後ろを向くと、背縫いの上部にピンク色、いや、桃色に染められた家紋が見えた。丸の中に、葉っぱをつけた桃の実がデザインされている。

柱時計が鳴り始めた。

初恋

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

現代御伽草子 ⑦⑧

あきふゆひこ
亜木冬彦

けて背表紙を確認する。

彼女を選んだのは伊藤左千夫の「野菊の墓」、三島由紀夫の「潮騒」、堀辰雄の「風立ちぬ」、林文子の「放浪記」、そして「岡本かの子短編集」。

すべて文庫本だ。妖艶耽美な作風の岡本かの子の本は少し意外だった。そうした自我の強い女性に対する興味、あるいは憧れがあるのだろうか。レジで精算するとき、千円札を

きれいだ。

「ありがとうございます！」
うしろ髪を三つ編みにした頭を深々と下げた。

時間が遡れるのであれば、彼女に忠告してあげたい。倉岡隆哉には気をつけろと。旧姓、田村久美子は、新卒の国語教師として、中学一年生のクラスを担任することになる。隆哉は背の高いニキビ面のマセガキで、気弱な新人教師の上げ足を取ってはネチネチと反抗して、久美子先生はホームルームの時間に泣き出してしまう。

自分が大人になってわかったことだが、あの思春期の悪童は、年上の美人教師に憧れていたのではないのか。淡い恋心の裏返しで、しつこく絡んだのだ。かくいうわたしも、そのクラスの生徒の一人だった。目立たない存在で、二年には転校してしまっただけで、彼女の記憶には残っていないだろう。

彼女の実家の近所にあった古本屋のおやじは、久美子先生の初恋の人であつたらしい。子供の頃に父親を亡くしている彼女は、ファザーコンプレックスがあるのか、年上の男性に惹かれていたようだ。

自動扉が開いて、瘦身の老人が姿

「扉が開いていますね」
「春の風を入れてるんです」
気障（きざ）なセリフだ。

「素敵ですね。時計さんも喜んでますわ」
なるほど、振り子の前のガラス戸を開けると、明るい音が鳴る。

「本を見させていただきます」
律義に断ってから、本棚を巡回する。ゆっくりとした動作で、時間をか



を現した。わたしと顔を見合わせ
て、互いに小さく会釈した。
「運転手さん、本を運んでもらえま
せんか」

彼女の依頼に、老人が苦笑を浮
かべた。一瞬、悲哀が顔に出てし
まう。友里実、久美子先生の夫で
ある。

彼女は、レビー小体型認知症を
患っている。神経細胞内に「レビー
小体」という異常なたんぱく質が
溜まることで、神経細胞が破壊さ

れ、さまざまな症状を引き起こす。
レビー小体は、パーキンソン病の原
因物質でもあるために、手足の震え
や手足の筋肉の硬化といった症状を
併発することも多いと言われている。

友里夫妻は、夫婦で市内のグルー
プホームに入所している。本好きの
実さんがちよくちよく店に顔を出す
ようになって、一冊の本を手渡され
た。「教師二人」と題された本は、
友里夫妻が自費出版した自叙伝だっ
た。

それを読んで、久美子先生が自分
の恩師であることを知った。実さん
はわたしが転校したあとで赴任して
来た数学教師で、教えてもらったこ
とはなかった。

その自叙伝によると、友里夫妻に
は一人息子がいた。手のかからない
素直な子供だったという。それが、
中学生のときに自殺してしまう。遺
書から、いじめを受けていたことが
発覚する。

久美子先生は、わが子の異変に気
付きながら、忙しさにまかせて深刻
には考えなかったことを、親として、
そして現役の教師として、痛切に自
分を責めている。一時は鬱病を患い
教師を退職したが、教え子たちの励

ましで復職する経緯が書かれてい
る。

「息子のことは、今でも後悔してい
るんだと思います。だから、その辛
い記憶を消したかった……」

認知症は神様からの贈り物かもし
れませんが、実さんは笑った。

グループホームの庭で咲いている
桃の花を見て、久美子先生の様子が
おかしくなったという話を聞いたの
は三日前だ。自分が大学生だと思
い込んで、これから卒業式に行くん
だと言いつけているという。それなら、
卒業式は無理ですが、自叙伝に書い
てある古本屋の思い出を再現しま
しょうと提案したのはわたしだっ
た。ダンディな古書店主はニセモノ
でも、わたしの初恋の人はホンモノ
なのだ。

「また来てください」

そう言ったわたしの顔を、久美子
先生が凝視した。

「冬彦くん……」

小さくかぶりを振って、踵（きび
す）を返した。

「実さん、お待たせしました。帰り
ましょう」

実さんが苦笑を浮かべてわたしを
見る。嬉しそうだ。

まちの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。
無料の漫画ルームもあります。
- ・地元の絵葉書、新鮮野菜の店頭無人販売もやっ
ています。

※九日市の開催日は2月でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10 ●定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL: 090(9913)3052 ●営業時間 9:30～18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

七月名(和風月名)(2)

文月(ふみづき)旧暦七月の異称。七月七日の七夕にちなんだ呼び名だというのが定説になっている。七夕の行事は奈良時代の養老年間(七一七〜七二四)に、中国から移入されたもので、もともと日本にはない風習であった。このことから、稲の穂の「含月(ふくみづき)」だとする説(「大言海」)のほうが、水稲耕作に結びついて納得がいくようである。

葉月(はづき)旧暦八月の異称。ハヅキは『日本書紀』の神武紀・戊午年に出てくるのが最初である。『古事記』にも『万葉集』にも出てこない。ハヅキの由来には諸説あり、木の葉が黄葉して落ちる月、すなわち「葉落ち月」「葉月」が訛ったものである。「穂発月(ほはりづき)」「穂張り月」のホトリが略されたものとする説。稲穂の「発月(はりづき)」の意からきたという説。ちよっと変わった説として、この月に初めて雁が来る月

で「初来月(はつきつき)」であるという説。

長月(ながつき)旧暦九月の異称。古来から、ナガツキは「夜長月」の略であるとの説が有力である。また、「長月」とは、夜初めて長きをおぼゆるなり。実に長きは冬なれども、夏の短きに対して、長きを知るゆえなり」という説明もある。異説もあり、「稲刈月」のイトリが略され、ねかづき↓ながづき↓ながつき、となったという説。「稲熟月(いなあがりづき)」が約されてナガツキになったとする説。

神無月(かんなづき)旧暦十月の異称。十月を神無月とする語源については、「十月かみなづき出雲国には鎮祭月といふ」(八雲御抄)とあるように古くから神無月説が有力で、旧暦十月には全国の神々が出雲大社に集まり、男女縁結びの相談をするため、各地の神々が留守になるという信仰に由来する。今では、十月は翌月の新嘗(にいなめ)の準備として新酒

を醸(かも)す月、すなわち「醸成月(かみなんづき)」の意からきており、神無月は当て字だとする説が有力である。

霜月(しもつき)旧暦十一月の異称。霜が降る月であるからとする説が有力である。「凋(しほ)む月」あるいは「末(すえ)つ月」が訛ったものであるという説。また、「食物(おしもの)月」の略であるとして、「新嘗祭を初として民間にても新饗(にいあえ)す」とする説もある。

師走(しわす)旧暦十二月の異称。十二月は一年の終りで、皆忙しく、師匠といえども趨走(すうそう、ちよこちよこ走るの意)する、というので「師趨(しすう)」となり、これが師走となったとする説が一般的である。また、師走の「師」は法師の意であるとし、十二月は僧を迎えて経を讀ませる風があったので、師がはせ走る「師馳月」であり、これが略されたものであるという説もある。今では、「歳極(としはつ)の略転か」という。あるいは万事、為果(しは)つ月の意。又、農事終る意か」という説もある。

参考までに、それぞれの月の他の呼び名をいくつかあげてみよう。

- 〈一月〉初月・初春月・初春・初歳・初陽
 - 〈二月〉衣更着・梅見月・中の春・酣春・華朝
 - 〈三月〉桃月・花見月・殿春(でんしゅん)・載陽・桃緑
 - 〈四月〉夏初月・始夏・麦秋・圍余(ごよ)・乾梅
 - 〈五月〉雨月・早苗月・梅夏・蕤賓(ずいひん)・厲阜(れいこう)
 - 〈六月〉風待月・鳴雷(なるかみ)月・長夏・常夏・積夏
 - 〈七月〉七夜月・秋初月・早秋・槐秋・流火
 - 〈八月〉観月・さきはなさ月・桂秋・秋高・竹の春
 - 〈九月〉菊月・寢覚月・募秋・肅霜(しゅくそう)・天睢(てんき)
 - 〈十月〉神去月・鎮祭月・開冬・小春・始冰(しひょう)
 - 〈十一月〉神楽月・天正月・冬半・広寒・黄鐘(おうしょう)
 - 〈十二月〉除月・暮古月(くれこづき)・暮節(ぼせつ)・窮紀(きゅうき)・嘉平
- (著者は広島市安佐地区の郷土史研究会「安佐通史会」の会長。旧暦の啓蒙や「旧暦カレンダー」の普及に尽力している。)

シニア海外ボランティア・エピソード③

「クリスマスチャンが多くて ちよつと図々しい国民性!」

山崎 允まこと

私のカウンターパート（業務承継者）の名前が素晴らしい、「パトリシア」と言ってハリウッド映画に出てくるマリリンモンローをイメージしていたが：。黒い肌（もちろんだけれど）、背丈約175cm、太っている（この国の主婦は太っているほど主人の評価が上がる）。でも、彼女はインテリで観光省の役人でもあり、どことなく気品が漂っていた。

彼女はすでに日本に招待されて観光事業の研修を受け、日本からのシニアボランティア待ちの状態にあった。しかし、日本からの適任者が現れなかったため、しびれを切らし、内閣（キャビネット）への昇任試験を受けて合格し、1か月先には本省に移ることになったと告げられたのだ。でも、私のカウンターパートになる後任者は決まっていけないという。残念だったが、その期間にザンビアの国情やザンビアの人達の性格を知ることができた。

パトリシアは出先から電話をかけ

てきて、私の車をタクシー代わりに使いたがる。その都度「運転手は今郵便局へ行かせているので」とか言っただけで、次回の断りの口実を考へるのに苦労した。そんな彼女の「図々しさ」は、国民性とも言える。例えば、新聞は日本円で約60円、朝のラッシュアワーの信号待ちの間をぬって売っている。私が読み終わる



のを待ちかねて「もういいかい」と同僚が催促してくる。

テレビ局はキリスト教に関する局のほか一局のみでウィークデーは夕方5時から放映されていた。局には車が不足している、あってもガソリンが買えない。ある時はつなぎに日本からもらった「相撲」の中継ビデオが放映されていた。自宅に衛星放送装置を取り付けたので、世界の情勢から取り残されなくてすむようになった。

雨の日、水溜まりの中を走る車は電気系統に故障を起こした。そんな時は、路上で物売りをしている兄ちゃん達が小遣い稼ぎに直ぐやってきて後押しする（写真参照）。二人の若者に押されている車は日本製だったので、別に気にすることは無いのに恥ずかしさを感じた。

ザンビア共和国は日本の約2倍にあたる国土面積は平坦な地形でジャングルはほとんどない。人口1892万人（2021年）、気候は乾季（4月から10月）と雨季（11月から翌年3月）、年中気候は温暖で過ごしやすかった。首都ルサカの海拔は1200mで、ゴルフの打球はそのためなのか遠くに飛ぶようになったと喜んだ。国の周囲は8か国に囲まれ、海

に接することのない内陸国なので海の魚の恩恵には預かれず、淡水で育った魚はタイに似ていたが匂いがきつく私はなじめなかった。

桜に匹敵する花は「ジャカランダ」、10月、11月ごろが見ごろでその前後に日本から観光客がヴェイクトリアの滝をまたいでザンビア側かジンバブエ側に集中して宿泊する。産業は銅の生産、しかし最近アルミニウムが市場を横取りして価格が下がり、国の収入に影を落としている。主食はシマと呼ばれて、芋を乾燥し粉にしたものを蒸かし、練ったものを指でつまんで食べる。我々シニアボランティアはナイフとフォーク、若いJICA海外協力隊員は現地の人と同じように指でつまんで食べていた。

宗教はキリスト教、熱心なクリスマスチャンが70%、食事前のお祈り、日曜日には家族揃って教会に出席する。こうした隣人や地域の人たちとのかわりは情操教育を育む上でよい習慣だと思う。日本では、宗教を通じて地域の老若男女が親しむことがなくなっている。教会から流れてくる讚美歌はリズムカルなものが多く、小さな子供たちが尻振り踊りをしながら楽しんでいた。上手なので、非常に可愛かった。

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

早春の巣箱に棲めるもの見えす

近藤 昌平

土鈴焼く高齢難事超えて雪

富久光

寒牡丹写真のごとく教師描く

片岡 正人

水温ぬるむ一つ増えたる墓石かな

隆愚

四分の一匹鱒買ふて子等を待つ

大槇 三代子

静かなり雪ふりしきる今朝の街

寺内 龍二

一輪の蒲公英たんぽぽありて昼餉かな

赤川 冬人

鬼は外父の大声なつかしき

松岡 初枝

鰯食はみつつ夫と語らふ

投稿&寄稿

候のことば

「啓けいちつ蟄すみれと董

隆愚

暦の七十二候に啓蟄というのがあります。これは二月五日から九日までを啓蟄の初候といい、「蟄虫啓戸」が語源です。「すごもりのむしとを

ひらく」と読みます。「蟄虫」は冬ごもりをしている虫、蛇や蛙なども含めた小さな生き物をさします。「啓」は開く事。まるで、家の戸を開いて顔を出したような表現です。小さな命にも暖かいまなごしを注いでいた事が感じられます。蟻出でておもひおもひの道選ぶ

福永耕二

董は古くから世界中で愛されてきた花です。日本に百種以上あるとい

われています。ゆかしい紫の花びらと、飾り気のない姿。うつむき加減に恥じらう様子が人々の心をとらえるのでしよう。いかにも弱そうなのに、とても強く、都会の道端でも咲いています。また、返り咲きする事も多く、冬でも見かけます。そんな所が魅力なのです。山路来て何やらゆかしすみれ草

松尾芭蕉

「二月休業」

赤川仁洋

日本でいちばん忙しい六十五歳なのではないかと思ってしまう。これは実態ではなく、あくまで気持ちの上でのこと。起きてから寝る前まで、「早くやれ」と急かされている気分。しかし、腰痛持ち（腰椎すべり症）なので、立ち仕事をしていると腰から下が痺れて辛くなり、ちよつと休憩とネットで遊んでいる時間が長くなる……。

物忘れも深刻。新しい本棚を作っているのだが、その道具をどこに置いたのかすぐに忘れる。四、五本はあったはずの鉛筆が手元がない。メジャーやカッター、老眼鏡、雑巾も

そう。かくして、店内整理のための時間がイライラしながら過ぎて行く。

やりたかったことの半分、いや三分の一も出来ていないが、光は射してきた。溜める一方だった在庫の本を、かなり処分できた。本は神聖なものと意識があつて、処分することに抵抗があつた。溢れかえる在庫に背中を押されたとは言え、商品としての本を選別することができたのは、本好きの素人から古本屋の口になる過程なのだ、少し誇らしく思う。



どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

一 硬式テニス参加者募集 一

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

・火曜日 (9:30 ~ 12:00)

・水曜日 (9:30 ~ 12:00)

・土曜日 (10:00 ~ 12:00)

連絡先：中川 (☎070-8991-1682)



《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
 - 教室&講座案内
 - イベント情報
 - あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター(現地記者)募集!
- ※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

「岡田(永代)美知代著作集」(溪水社、税別2000円) 有元伸子&府中市上下歴史文化資料館 編

「岡田(永代)美知代(1885-1968)は広島県府中市上下町出身の小説家・翻訳家。田山花袋『蒲団』の女弟子のモデルとしてスキャンダルに巻き込まれた。本書は美知代の代表的な小説に加えて、習作や師・花袋への恩と怨みを表白する評論、若い世代にエールを送る少女小説、晩年の原稿と新発掘の新聞小説も収録。

いま読んで新しい、格闘と共感に満ちた作品世界」(帯の解説文より)

晩年を庄原市川北町で過ごした岡田美知代の著作集。文学者としての功績に光を当て、また巻末の有元氏の作品解説がわかりやすい。



編集後記

◇今月号で七年目が終了です。いつも月末はアップアップなのですが、毎月の締切り(発行日)があるからこそ、一度も休刊せずになんばれたのかもしれない。今後ともよろしく

お願いします。

◇連載企画『文学探訪・庄原と「百三の青春」』は、作者の音谷健郎さんのパソコン故障のため休載。黒長瀬さんの追悼文は、3回に分けて掲載予定です。

◇「グランデ広島40(季刊春)」に「芸備線ぶらぶら散歩」の3回目が掲載。芸備線の桜巡りと、小奴可駅から備後八幡駅までを書いていきます。

◇新装開店、とまではいきませんが、休業明けの三月のご来店をお待ちしております。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛: 九日市愛好会

第258回

くunchiichi

しょうばら九日市

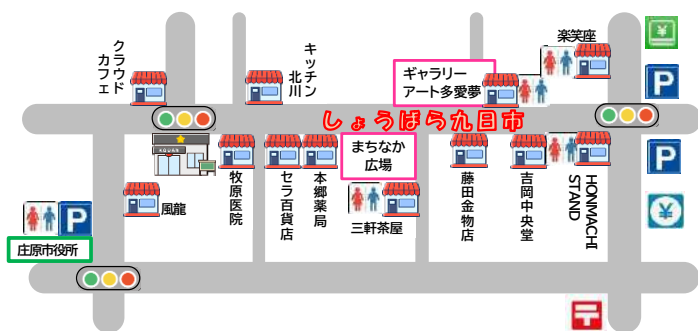
〈出店一覧〉

- | | | |
|----------------|------------|--------------------|
| *文屋 | *農楽会 | *口和ふれあい加工所 |
| *お福 | *二八そば加工所 | *里山キッチンほっぺ |
| *郷屋 | *さだっさ | *克國水産 |
| *工房アム | *17KITCHEN | *久代水産 |
| *ぬくもり | *アーミツシュ | *くんえん工房 香豚 |
| *ちくちくはうす玉手箱 | *ふくふく牧場 | *どんぐりーず |
| *和み屋 | *満じいの手打ち蕎麦 | *田崎屋 |
| *クラフトショップ | *とらぢ | *宮川屋 |
| *くららおばさん | *健康企画グループ | *庄原特別支援学校
(高等部) |
| *ハンドメイド i.chee | | |



2023年
3月9日(木)
9:00~13:00

まちなか広場前にて、
*甘酒を無料で配布します
(なくなり次第終了です)
*折り紙ワークショップ開催!



TOPICS

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」
3月8日(水)~3月10日(金)10時~15時
令和4年度庄原市文芸大会
- ★楽笑座「アカボリ」着物着付け(女性)500円
「うた声喫茶」開催 13:30~15:00
- ★どら書房→休憩所あります!!
- ★風龍→九日市スペシャルで餃子200円!
- ★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き
- ★カフェクラウド→タピオカドリンク100円引き
九日市特製ピタサンド600円

*出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,000円~
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 (楽笑座内)

【ホームページ】
<http://www.kunchi-ichi.jp>

